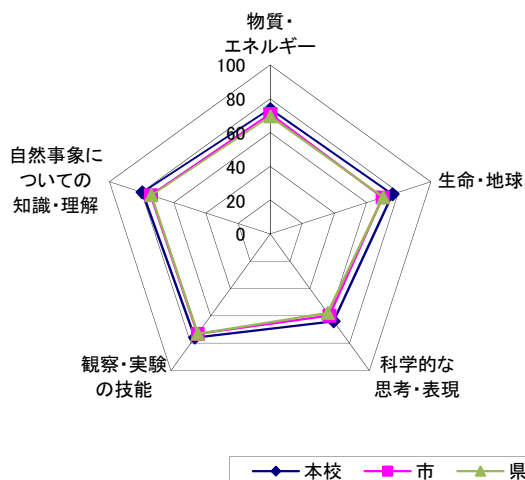


宇都宮市立今泉小学校 第4学年【理科】分類・区別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	物質・エネルギー	74.0	71.1	69.6
	生命・地球	76.2	70.0	70.3
観点	科学的な思考・表現	63.9	59.8	57.8
	観察・実験の技能	75.9	73.2	73.0
	自然事象についての知識・理解	79.6	74.3	74.0



★指導の工夫と改善 ○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の改善
物質・エネルギー	<p>○本校の平均正答率は県の平均を4.4ポイント、市の平均を2.9ポイント上回っている。</p> <p>○「ものと重さ」「電気の通り道」に関する知識を問う設問の正答率は85～95ポイントと高い。これらの単元での学習内容の定着がみられる。</p> <p>●「じしゃくのせいしつ」「電気の通り道」ふたつの単元の学習内容にまたがって、身近にあるものの性質について記述式で答える設問では、県の平均正答率とほぼ変わらないものの、正答率が低い。</p>	<p>・教科書で学習するだけではなく、実際に実験し、過程をよく考察し、結果をまとめることで実験結果を定着させていきたい。また、その過程において考えたことを表現する時間も設定することで、考えたことを表現することに習熟していく場を確保していきたい。</p> <p>・視聴覚教材を有効に活用し、視覚的に学習内容を捉えることができるようにしていきたい。</p>
生命・地球	<p>○本校の平均正答率は県の平均を5.9ポイント、市の平均を6.2ポイント上回っている。</p> <p>○設問ごとの正答率を比較すると、県や市の平均を4ポイント以上、上回っているものが多い。</p> <p>●「身近なしぜんかんさつ」の昆虫の生息場所に関する設問の正答率は、県の平均をより7.5ポイント上回っているものの、十分であるとは言えない。</p> <p>●方位磁針や温度計の使い方に関する設問への正答率は十分であるとは言えない。</p>	<p>・学校だけではなく、身近な生き物や自然のついて興味・関心をもつような言葉かけや機会を増やすようにする。</p> <p>・授業で観察結果から考察し、知識を関連付ける場面では、「なぜ」「どうして」と考える機会を多く設けるようにする。</p> <p>・誰もが体験的に学習活動に取り組めるよう、実験、観察器具の整備と、十分な活動時間の確保に努めたい。</p>